

もっと安心農産物 キャベツ（冬どり）栽培暦（令和6年）

JAちばみどり 海上野菜組合産直部

1. 土づくり

・完熟堆肥2トン／10aを施用するか、エン麦・ギニアグラス・ハブソウを輪作体系として作付けする

2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守 **化学肥料窒素成分使用量14kg／10a以下**

基肥は①、②、③のいずれかを選択する。

	肥料名	施肥量
基肥	①マイルドユーキ030号（10-13-10 有機態窒素 5.3）	100kg／10a以下
	②エコレット866（8-6-6 有機態窒素 4.1）	140kg／10a以下
	③ちばみどり有機888（8-8-8 有機態窒素 1.2）	160kg／10a以下
	苦土石灰	60kg／10a
追肥	マイルドユーキ030号（10-13-10 有機態窒素 5.3）	60kg／10a

3. 防 除 **化学合成農薬 8成分回数まで(苗購入の場合6成分回数まで)**

(Zボルドー・スピノエース顆粒水和剤・エスマルクDFは、化学合成農薬に含めない)

月	管理 作業	病 害 虫 の 発 生 推 移	薬 剤 名	希 釈 倍 数 ・ 処 理 量	回 数	対 象 病 害 虫	備 考 (耕 種 的 防 除 の 実 施 等)	
8 月 中 旬	播 種	ネキリムシ ↑ ヨトウムシ ↑ 黒腐病・べと病 ↓ ↑ コナガ ↓	①ネビジン粉剤 又 は ネビリュウ	20～30kg ／10a (播種又は定 植前)	2回	根こぶ病	害虫の発生量を減らすため圃場 周辺の除草をする 育苗床は害虫防除のため寒冷 紗でトンネル被覆をする	
下 旬			②カルホス微粒剤F	6 kg／10a (播種時又は 植付時)	1回	ネキリムシ類		
9 月 上 旬	定 植		③フォース粒剤	4 kg／10a (定植時)	1回	ネキリムシ類		
			エスマルクDF	1000～ 2000 倍 発生初期(但 し、収穫前日ま で)	—	コナガ		
	1000 倍 発生初期(但 し、収穫前日ま で)			—	ヨトウムシ ハイマダラノメ イガ			
中 旬			④コルト顆粒水和剤	3000 ～4000 倍 (収穫前日)	3回	アブラムシ類		ネギアザミウマ
				3000 倍 (収穫前日)				
下 旬			⑤コテツフロアブル 又は	2000 倍 (収穫前日)	2回	コナガ	フェロモントラップ等で発生量を 観察し防除を実施する	
			⑤プレオフロアブル	1000 倍 (収穫 7 日前)	2回	ヨトウムシ		
	10 月 上 旬		追肥 土寄せ	Zボルドー	500 倍 (—)	—	黒腐病・ べと病	土寄せ後黒腐病の防除を実施 する
中 旬			スピノエース顆粒 水和剤	2500～ 5000 倍 (収穫 3 日前)	3回	コナガ ヨトウムシ		
下 旬	結球 初期						アブラムシ類発生の場合は、⑩ モスピラン顆粒水溶剤 2000～ 4000 倍 (収穫 7 日前・5回)を散 布する	
11 月 上 旬			エスマルクDF	1000～2000 倍 発生初期(但 し、収穫前日ま で)	—	コナガ		

	収穫		1000 倍 発生初期(但し、収穫前日まで)	—	ヨウムシ ハイマダラノメイガ	
中旬		⑥アフーム乳剤	1000～ 2000 倍 (収穫前日)	3回	コナガ ヨウムシ	降雨が多い場合は、菌核病防除の為、⑪セイビアーフロアブル 20 1000 倍 (収穫前日・3回)を散布する
下旬		⑦プレバソフロアブル 5	2000 倍 (収穫前日)	3回	アオムシ ヨウムシ	ヨトウムシが多い場合は、⑫フェニックス顆粒水和剤 2000～4000 倍 (収穫前日・3回)を散布する コナガが多い場合は⑬ハチハチ乳剤 1000～2000 倍 (収穫 14 日前・2回)、アザミウマの場合は 1000 倍を散布する
12月 上旬		⑧トルネードエースDF	1000～ 2000 倍 (収穫 7 日前)	2回	コナガ	
中旬						
下旬						
			⑨グレースシア乳剤	2000～ 3000 倍 (収穫 7 日前)	2回	コナガ ウワバ類 アオムシ

☆みんなで守ろう生産基準